

ねこの健康を願って

五年 長島功昌

「ニャン♪」

ぼくの宝物、キキの鳴き声です。

ねこは、家の周りにもたくさんいます。のらねこも、飼いねこも、どちらも大切にしなければいけないと思います。

ぼくのお父さんは、調味料の原料の製造会社で、働いています。そして、キャットフードの原料も造っています。

ある時、大量の製品を造っている時に、キャットフードの原料の中に、異物が入る出来事があったそうです。その時、会社の上司は、造っていた製品を全て処分をする判断をしたそうです。これを聞いて、びっくりしたけどこの上司は、材料費が無駄になり、利益が出なくなることは仕方ないけど、ねこの安全を第一に考え、いい判断をしたと思いました。ぼくもこの上司と同じ考えで、もし家のキキが食べたら困るし、この製品を他のねこが食べて、病気になっても困るし、処分すると思います。

この話をお父さんから聞いて、食品を製造する人の責任はとても重大だと感じました。そして、人間も動物も命の大切さは同じだなと思いました。

去年まで、うちのオスねこのキキが何度かぼうこうえんにかかりました。その時、おばあちゃんは病院にキキを連れて行き、薬で治りました。特に、オスねこは、ぼうこうえんにかかりやすいそうです。なので、おばあちゃんはそれから、体に良いえさに変えました。それからは、キキのぼうこうえんはえさで調整しています。

ちょうど去年のこの頃、東京大学の教授がねこの腎臓病の治りよう薬の研究をするために、募金で資金調達して、クラウドファンディングで三億円を超えるほど集まったというニュースを知りました。

この話を聞いて、世界にはねこ好きの人や、ねこを腎臓病から救いたい人がたくさんいることに気が付きました。

ぼくもその中の一人だと思います。今回は、募金ができなかったけど、その腎臓病の治りよう薬が開発されたら、ねこの寿命も伸びると思うし、人間の医学にとっても大きな進歩だと思います。ぼく達の思いが伝わるように治りよう薬の開発を心から願っています。